

生きる力を育む指導と支援のあり方

～生徒に合わせた目標設定と、中高の学びの連続性を意識した授業実践～

千葉県立船橋夏見特別支援学校 電話 047-429-6699
FAX 047-438-2099



研究のポイント

研究指定を受け、副題にある2つの視点に着目し研究を進めていく。1つめの生徒に合わせた目標設定においては、学習指導要領に基づいた学びの連続性を重視した教育課程のための実態把握と単元目標の見直しを目指していく。2つめの中高の学びの連続性を意識した授業実践においては、主体的で対話的で深い学びに向けた授業実践と教育課程との接続を図っていく。研究を進めていく上で、2つの視点に着目しながら進めるとともに学校研究と研究指定の接続に配慮して研究を進めた。本研究では、生徒にとって質の高い授業の展開と教育課程における職員の意識の向上を実現させることを目的としている。

■学校の概要 <https://www.chiba-c.ed.jp/f-natsumi-sh/>

平成27年度に開校し肢体不自由のある中学生・高校生を対象とした学校である。生徒の障害の特性に応じた教育課程として「A 課程（準ずる教育課程）」「B 課程（教科等を合わせた教育課程）」「C 課程（自立活動を主とする教育課程）」を設けて教育活動を展開している。

■研究課題

学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等の目標・内容の理解を深めるとともに、生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の在り方について実践研究を行う。

■研究の目的と方法

- (1) 授業改善で得られた生徒の変容や授業づくりの過程など、授業の構成に関する知見を他学部、他課程と共有することで、授業実践と教育課程とのつながりに対する教師の意識の向上を図る。
- (2) 個に合った指導、支援を全校で共有することで、学びの連続性を重視した教育課程の編成に努める。

【研究の方法】

- ① 課程ごとの3つの研究グループで主題と仮説を設定し研究実践を継続して進めるとともに、研究テーマに関連した研修を行う。その結果から、より本校の生徒にあった教育課程の編成（授業科目や内容の精選）について提案事項をまとめる。
- ② 教育課程編成における職員の意識調査を2回行い、変容を検証していく。
 - ・ A 課程（準ずる教育課程）：授業実践を中心として研究授業を行い、互いの授業づくりの検討や参観、評価を行う。また、生徒の課題でもある思考力・判断力・表現力の育成に向けて、研究仮説の検証と教師の指導スキルの向上を目指す。
 - ・ B 課程（教科等を合わせた教育課程）：単元や課題の設定、場の設定、教材教具の工夫について課程内で有効性を話し合い授業展開の中からそれらを評価して検証していく。

- ・C 課程（自立活動を主とする教育課程）：ツールを使った事例生徒の実態把握を行って共通理解し、授業改善しながら変容を追っていく。

■研究概要

（１）A 課程（準ずる教育課程）の取り組み

<成果>

- ①自分の考えをもつための書く活動の充実を図ることで、根拠を明らかにしながら自分の考えを簡潔にまとめ、発表する様子がみられた。
- ②ペアワークやグループワークで意見の交流を設定したことで、相手の意見から相違点や類似点に気付き、より考えが確かなものとなったり見直したりする様子がみられた。
- ③具体物の操作や比較をするなかで題材の理解を深めたり、I C T 機器によって処理された結果からより深く数値の分析をしたりする様子がみられた。
- ④I C T 機器を使った拡大指導案による参加型の協議会を行い、意見を可視化しながら進めることで、意見が活発になり仮説の検証を図ることができた。

<課題>

- 「思考力・判断力・表現力」の観点に対する評価基準を検討する。
- 授業ごとの学習課題に対する授業内容の精選を検討する。

（２）B 課程（教科等を合わせた教育課程）の取り組み

<成果>

- ①活動しやすい空間、教材教具の提示の工夫により授業が効果的に展開できた。
- ②生徒の実態に合わせた目標の水準、活動内容の工夫が図れた。
- ③事象に対して気付くことが主な目標になる生徒、事象に気付きなげなのかを考え、自分の言葉で説明することが目標になる生徒に分かれることがわかった。

<課題>

- 中高の学びの連続性に向けて、中高各教科の内容の連続性に着目し、学習指導要領との整合性を検証していく。
- 生徒の学びに視点を当て、授業内容と授業時数の見直しと検討を図る。

（３）C 課程（自立活動を主とする教育課程）の取り組み

<成果>

- ①夏見版フローシートの記入を行うことで、生徒の実態把握を共通理解し、各単元の指導目標を達成するための手立ての検討ができた。
- ②授業実践や教材研究で意見交換することで、授業改善につながった。
- ③学部をこえて授業の良い点や改善点を話し合うことで、学部ごとに大切にしている視点等の共有と学びの連続性の大切さを再認識することができた。

<課題>

- 夏見版フローシートと既存する資料（実態表や単元計画表）との精選を図り、効率よく研究を進める。
- 学部の連続性につなげるため、中高での意見交換会を複数回実施する。
- P D C A サイクルを意識した学びの連続性を横から縦により深めていく。

（４）教育課程における意識調査結果（6月・11月）

- ・教育課程と学校教育目標、授業との関連についての質問では、意識の高さが継続してみられた。教育課程のイメージ、手順の理解については、一定の数値の上昇はみられたが、難しいイメージが残るかたちとなった。意識調査を実施することで、教育課程への理解の推進、職員の参画意識の向上、本校の強みを明らかにすることができた。

関連資料

- ・『特別支援学校における教師の教育課程に対する意識と影響要因』佐藤貴宣・藤井和子（2017）特殊教育学研究，54（5），273 - 282
- ・各教科等チェックシート・自立活動フローシート 千葉県総合教育センター特別支援教育部